

## 細川藩の御米蔵が残る伝統の町並み

熊本市川尻地区  
〔町並みの分類／城下町及び五ヶ町〕

瑞鷹酒造の前の通り

## 町並みについて

- ◆熊本市川尻地区は、加勢川が貫流し中世より貿易港として発展し、熊本から隈庄(熊本市南区城南町)に通じる陸上幹線路もあり、交易拠点として栄えました。
- ◆同地区は、江戸期には細川藩の代官が置かれる「肥後五ヶ町」に数えられ、肥後における交通の要所、商業の拠点機能を担っていました。また、熊本城下町に近く、熊本の外港的役割を果たすと同時に水運を通じて託麻、益城、宇土、飽田郡のうち18手永の年貢を集めて大坂に積み出し、販わいました。
- ◆熊本市の景観重要建造物に指定された瑞鷹酒造本社をはじめ、歴史的な史跡、建造物が建ち並び、和菓子や刃物など伝統産業が今も息づく貴重な町並みです。



## 町並みの中心(核)となる伝統的建造物



## 熊本藩川尻米蔵跡

(外城蔵跡、船着場跡、御船手渡し跡)

国史跡

- ◆1680年に藩の年貢米倉庫として建てられた米蔵は、藩政期には東蔵・中蔵・外城蔵にそれぞれ3棟、合計9棟あり、年間20万俵もの年貢米が集積されたといわれています。現在は外城蔵の二百坪蔵と六十坪蔵の2棟が残っています。
- ◆年貢米や物資の積み下ろしを行っていた船着場は、潮の干満や水量の増減の影響を受けないように、合計14段の石段が約150mにもわたり築造されています。また、御船手渡し跡は、1961年まで対岸の杉島御船手地区を結ぶ船渡しとして利用されていました。



加勢川沿いに築かれた船着場跡

同地区では、古くからの歴史、伝統芸能などが保存、継承されており注目度を増しています。特に蔵跡と船着場跡が揃って残る場所は全国的にも貴重で、藩主の御座船である波奈之丸なども入港した熊本藩の海軍基地として全国に名を馳せた販わいを各所に色濃く残しています。